



大学図書館研究会京都地域グループ

DX セミナー

終了しました

アフターコロナ時代の出版と図書館

2020 年度は新型コロナ拡大防止との戦いで始まり、そしてそれは今も続いています。しかしその一方で、この間なかなか進まなかった ICT への取り組みが一挙に進んだことは、みなさんも感じられているところだと思います。

図書館においては、紙媒体でのサービスの困難性は今も続いています。電子コンテンツへの重要性と利用の広がりを一挙に見せた年になったのではないのでしょうか。今回ご講演いただく、湯浅俊彦先生（追手門学院大学）は長年、デジタル環境下における出版ビジネスと図書館に関する研究を進めてきた第一人者であり、2020 年 11 月にはタイミングよく『電子出版学概論－アフターコロナ時代の出版と図書館』を出版され出版流通、電子図書館、著作権、読書アクセシビリティなどの新たな状況を解説、整理されました。

そこで今回のセミナーでは、デジタル・ネットワーク社会において電子出版がもたらす読書の変容、データベース化する出版コンテンツの利活用について、追手門学院のこども園・幼稚園から大学院までの取り組み事例を紹介しながら、解説していただきます。

日 時 : 2021 年 2 月 13 日 (土) ~ 2021 年 2 月 22 日 (月) 正午
2021 年 2 月 23 日 (火・祝日) 10 時 00 分 ~ 11 時 30 分

会 場 : オンライン (Zoom)

講 師 : 湯浅 俊彦 (追手門学院大学・国際教養学部国際日本学科・教授)

主 催 : 大学図書館研究会京都地域グループ

[目 次]

大学図書館研究会京都地域グループ DX セミナー 終了しました	…	1
大図研 京都地域グループ DX セミナー「アフターコロナ時代の出版と図書館」参加記	坂本 雅	… 2
グループ報の電子送信および冊子体の廃止のアンケートについて	…	4
会費ご納入のお願い	…	4

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール : kyoto@daitoken.com (大学図書館研究会京都地域グループ)

URL : <http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

大学図書館研究会京都地域グループ DX セミナー
「アフターコロナ時代の出版と図書館」 参加報告

大図研 京都地域グループ DX セミナー「アフターコロナ時代の出版と図書館」
参加記

坂本 雅

2021年2月23日に zoom 上で開催された大図研京都地域グループ DX セミナー「アフターコロナ時代の出版と図書館」に参加させていただきました。簡単ではありますが、参加の報告をさせていただきます。

1. はじめに

現在、私は大学の卒業研究で「コロナ禍における大学図書館の遠隔サービス」について調査を進めています。ゼミの担当教授である常世田先生に大学図書館研究会について教えていただき、一度セミナーに参加してみてもどうかと京都支部の安藤様、若狭様よりお誘いをいただきました。オンラインセミナーかつ会員でなくても参加可能だということで、参加させていただきました。実のところ「図書館・出版社関係者の方も多く参加されているセミナーに、一介の大学生が参加して話についていけるだろうか？」とかなり緊張しておりました。しかし、いざ参加してみますと、そのような心配は無用でした。楽しく興味深いお話をたくさん聞くことができ、とても満足です。

2. セミナーの実施形式について

今回のオンラインセミナーは、画期的な方法で実施されました。講師である追手門学院大学の湯浅先生が事前に動画を収録・公開。セミナーの参加者は動画を視聴したうえで質問を湯浅先生へ送り、2月23日当日に意見交換を zoom で実施するというものでした。また2月23日の講演内容を後日、文字おこしして追手門学院大学が採用している電子図書館サービス「LibrariE」で公開する予定だそうです。就職活動、大学の講義など、コロナ以降オンラインで実施されるセミナーにはかなり慣れていたつもりなのですが、今回のような実施形態は初めてで非常に驚きました。

3. 参加前に配信された動画について

セミナー参加前に湯浅先生が配信してくださった動画を拝見いたしました。国立国会図書館のデジタル資料のアーカイブ保存について、また教育現場におけるデジタル資料の活用事例について追手門学院大学を取り上げ、デジタル資料と図書館サービスの今後の在り方についてお話いただきました。

出版社と図書館で、デジタル資料のアーカイブ保存については、かなり意見が対立しているようです。しかしその一方で、コロナ禍においては非常時の対応として、期間限定でコンテンツを無料提供している出版社も多いそうです。お話の中では、非常時のみこのような対応をするのではなく、平時からきちんとデジタル資料についてはアーカイブ保存を進め、利用者に提供できるようにするべきだというご意見がありました。今回のコロナ禍では、大学図書館も電子書籍の導入やデータベースの拡充を行っています。出版社と同様にあくまでも一定期間のトライアルのみ、という対応をしている大学図書館もあるようですが、アフターコロナのことも視野に入れるべきではないかと感じました。

4. セミナー当日について

セミナー当日は、大学図書館関係者の方や出版社勤務の方、学生など様々な所属の方が参加されていました。最初に参加者のみなさんが動画を見た感想や、ご自身の意見を発言され、次に事前に集計されていた質問について湯浅先生が回答、それについてさらに議論…といった流れでセミナーは進みました。

大学図書館は蔵書数を誇るだけでは駄目で、図書館情報資源がきちんと利用されることこそが重要です。そして、その流れは今回のコロナ禍によってより顕著になったそうです。議論の中では、大学生にもっと図書館情報資源を使ってほしいという話題が出ました。私自身、大学生として今回のコロナ禍を経験してみて、大学生側の意識改革と学外でも利用できる資料の増加という二つの対策が必要であると感じました。コロナ禍でもやはり紙の資料にこだわり入館制限があるなかで大学図書館に行く、大学図書館の資料・データベースが学外で使用できないため地元の公共図書館を利用する、といったケースも身近にありました。

また、出版社の方と大学図書館勤務の方との意見交流もあり、出版社 vs 図書館業界という二項対立ではなく、著者も入れた三つのステークホルダーで、電子書籍のアーカイブ保存については進めていくべきだというご意見もありました。第三者的視点として、研究者や作家など幅広い分野の「著者」にも議論に参加していただくことで、何らかの進展が見込めるのではないかと思います。

全体を通して、現場で働かれている方々の貴重なご意見を聞くことができ、とても参考になりました。

4. おわりに

学生の皆様には、ぜひ大学図書館研究会のセミナーに一度参加してみたいと思います。「学生でも参加して大丈夫かな?」「会員じゃないのにいいのかな?」と思われるかもしれませんが、会員・非会員の垣根を超えて議論がされていましたし、司書課程を受講されている方であれば、専門用語が飛び交って内容が全く理解できない…ということもないと思います。今後のセミナーも多くはオンラインで行われることが予想されますし、参加への心理的ハードルも少し下がるのではないのでしょうか。そもそも我々大学生は、大学図書館のステークホルダーのうち「利用者」のポジションに属しています。学生だから…と遠慮する必要はないと思います。ぜひ、一度参加してみたいと思います。

また、大学図書館研究会の皆様におかれましても、今後とも学生がより参加しやすいイベントを企画していただけますと幸いです。

改めまして、今回セミナーに参加させていただき、誠にありがとうございました。

さかもと みやび (立命館大学文学部生)

グループ報の電子送信および冊子体の廃止のアンケートについて

現在京都地域グループではグループ報を隔月で発行しておりますが、このグループ報について、冊子体の刊行を廃止し、ウェブサイトにおいて電子的な発行を行うことを検討しております。

【廃止案】

廃止巻号：2021年6月号までで廃止

冊子体の発行：国立国会図書館への納本分を除き、会員向けの発行を廃止（機関への発行はありません）

電子公開方法：京都地域グループウェブサイトでID/パスワード方式による公開。半年のエンバーゴののち一般公開する

ID/パスワード連絡方法：メールでの送信（変更時も同様）

上記提案につき、京都地域グループ会員総会に先立って、皆様のご意見をいただきたくアンケートを実施いたします。以下のURLからアンケートに回答くださいますようお願いいたします。

締め切りは、2021年5月10日とします。

URL：<https://forms.gle/Kz2RBnQb61GEQ1LV8>

よろしくお願いたします。

◇ 会費ご納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

2016/2017年度(2016年7月～2017年6月)より、大学図書館研究会会費は、すべての会員の皆さまに、直接大学図書館研究会事務局へご納入いただくこととなりました。

一括徴収方式に移行し、5年目となりますが、京都地域グループは年度継続の前に会費をご納入いただく前納があまり進んでいない状況でございます。ワンデイセミナーやグループ報は京都地域グループ費により開催・発行させていただいております。ご多忙のところ大変恐縮ですが、会費のご納入のほどよろしくお願いたします。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都地域グループ費：¥2,000)/年度です。

【振込先】

郵便局 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900 ■店番 019

■預金種目 当座 ■店名 〇一九(ゼロイチキュウ店) ■口座番号 0079769

ご不明な点は大学図書館研究会事務局(会費担当)(kaihi@daitoken.com)までご連絡ください。

※ 学生会員制度(試行)として、学生の方には特典をお渡ししております。

詳細は京都地域グループ Web サイトの「学生会員制度の試行について」をご覧ください。